

9150

教 第 一 一 號

受 審 領 證	件 名	大 臣	決 裁	主 務 局	課 務	局 務
司 第 一 三 七 一 号	新 式 速 射 砲 試 驗 件		參 事 官	主 務 局 長 	主 務 課 長 	聯 帶 局 長 
廳 名 教 育 總 監 部		高 級 副 官 	主 務 課 員 	主 務 局 員	審 案 筆 記 者	

主

官

官

總監部より教育總監部へ
通達書

新式連射砲試験の儀に付甲第五五一號ヲ以テ
去迄監よりキる者大臣へ移牒お成事やと大野
我砲兵此意見ト曰據ノ義既に技術審査部
審査し其結果を呈上し其結果を呈上し其結果を呈上し
通達書

陸軍省 送乙第 云々九 號 七月廿二日



8150

陸軍省第一三七號

送教育總監部 甲第五五一號

新式速射砲試驗ノ儀ニ付別紙ニ通り野
戰砲兵監ヨリ意見上申多處此際最モ必
要ノ儀ト存ス付此段及移牒ス也

明治三十六年七月十五日

教育總監伯爵野津道貫

陸軍大臣寺内正毅殿

陸二部ノ五号

七月十六日

教育總監部

新式(砲身後座式)速射砲試験ノ儀存意見

上申

意見

速_ニ砲身後座式速射砲ノ試験ヲ施行シ最モ有利
ノ制式ヲ撰定シ之ヲ採用セラレタシ

理由

西曆千九百一年佛國カ其全軍砲兵隊ニ新式(砲身
後座式)速射砲ヲ交付セシ以來大ニ列強諸國ノ注意ヲ
惹キ爾來歐米諸國ニ於テハ或ハ委員ヲ設置シ或ハ試
験中隊ヲ編成シ各種ノ新式火砲ニ就キ最モ熱心ナル比

較試験シテ既ニ其制式ヲ決定セルモノサヘアリ又各國
ノ兵器工場ニ於テハ各種ノ新式火炮ヲ製造シ諸種ノ
試験ヲ經テ十分戰用ニ適スルニ至リシハ既ニ何人モ疑ヲ
容レサル所ナリ

新式速射砲ト現用速射砲トノ主要ナル差異ハ射撃手速
度ノ大小ト防楯ノ有無ニ在リ現用速射砲ハ熟練ノ砲
手ヲ使用スルモ一門ニ付一分間七乃至八發ヲ射撃シ得ル
ニ過キスト而新式速射砲ハ一門一分間二十五發若クハ其
以上ヲ發射シ尚且照準甚タ精確ナリ是レ發射間砲
架ハ地上ニ固定シテ毫モ移動セズ砲身ハ自動的ニ舊
位ニ復スルヲ以テナリ

新式速射砲及之ニ屬スル彈藥車ニ裝備セル防楯ハ
其厚サ三乃至六耗ノ鋼板ニシテ榴霰彈ノ丸子破片并ニ
小銃彈ニ對シ善ク砲手ヲ掩護セルカ為メ砲手ハ沈着
ニテ操作スルヲ得ヘシ

新式速射砲ニ應用スル照準裝置ハ精巧ナル眼鏡ヲ
備フルヲ以テ照準容易且正確ニシテ迅速ナリ又射距離
ノ変換ニ要スル射角ノ増減ハ轉把施回ニシテ甚タ精密
ナリトス

要スルニ新式速射砲ノ性能現用火砲ニ優ルヲ頗ル著
大ニシテ我邦野戰砲兵ニ於テモ速ニ之カ試験ヲナシ最モ
有利ナル制式ヲ撰定シ之ヲ採用スルヲ目下ノ急務ナリト

信ス

砲身後座式速射砲モ其種類多シ其最モ有利ナル制
式ヲ撰定スルニ慎重ノ試験ト公明ナル審議ヲ經サル可
ラサルヲ以テ多クノ時日ヲ要スヘク從テ之カ着手一日モ
早カラシムヲ要ス

右至急御詮議相成々様致度此段意見申
進也

明治三十二年七月七日

野戰砲兵監伊地知幸介

教育總監伯爵野津道貫殿